

平成28年 小児がん拠点病院事業「看護師研修」報告(平成28年11月24日・25日)

		国立成育医療研究センター	国立がん研究センター
構造	病床	27床	12A病棟(成人・小児病棟):28床 12B病棟(造血幹細胞移植病棟):26床
	クリーンルーム	2室(自家末梢血幹細胞移植については、陰圧個室を陽圧にし、クリーンウォールを設置して実施することもある)	12A病棟(成人・小児病棟):3床を無菌室とし、小児の自家末梢血幹細胞移を施行している。
	病棟の構造	ISO5のクリーンルームと一般床10室	12B病棟(造血幹細胞移植病棟):病棟全体が、class10,000となっており、そのうち、class5,000:6床、class100:6床の個室を有している。
疾患	年間移植件数	平成26年度:10件・平成27年度:20件・平成28年度25件	平均して年間100件程度。
	移植の内訳	平成26年度:11件(同種:10、自家:1) 平成27年度:20件(同種:13、自家:7) 平成28年度:27件(同種:18、自家:9)の予定	平成28年度11月現在は94件(同種移植:78件、自家移植:16件)
	主な疾患	ALL、AML、神経芽腫、横紋筋肉腫、肝芽腫、LCH、網膜芽細胞腫、脳腫瘍、CGD、再生不良性貧血等	再生不良性貧血、ALL、AML、骨髄異型性症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄増殖性疾患群等
	疾患の内訳	平成26年度:78名(血:25、固:24、脳:29) 平成27年度:109名(血:44、固:35、脳:30)	
看護体制について	日勤の看護体制	固定チームナーシング ⇒日勤の総合リーダーがいて、各チームに分かれて1人の看護師が(複数の患者を担当 利点)担当患者の人数が少ない 欠点)経験の少ない看護師の能力に任されるので、相談できる体制の構築が不可欠	パートナーシップナーシング ⇒新人看護師と後輩看護師がペアになり複数の患者を担当 利点)未経験項目について相談しやすく、安心して業務ができる 欠点)担当患者の人数が増える
	移植看護の導入	1・2年目看護師の導入については評価表を基にチェックするが、3年目以降は自己研鑽となるため、自己の努力が必要	各自で自己評価をし、可視化している
	長期フォローアップ	1日に2名。 移植後に特化した問診票はない。	1日に5名。 移植後に特化した問診票を使用している。